



2009年8月30日

いま起きつつあること…

村上伸先生の

平和講演会から



はじめに

これからしばらくの間、今年の5月16日に行われた神学社会委員会主催平和講演会「死刑をどう考えるか——裁判員制度が始まるにあたって」(村上伸講師)の内容を紹介したいと思います。すでに裁判員制度が始まっていますが、この制度は一般市民が死刑判決に直接関与する可能性のある制度です。神学社会委員会では、死刑に対する様々な意見、それらの是非を提供することによって、皆さ

死刑廃止は世界の大勢

この講演会を企画しました。んの裁判員制度へかわり方を決める一助になればと願います。この講演会を企画しました。アムネスティインターナショナル日本の統計によると、近年、急激に死刑執行数が増えている日本は、北朝鮮について世界第10位という結果が明らかになりました。地域的に見て、アジアが最も多く、ヨーロッパでは旧ソ連のベラルーシだけが今も死刑を執行している唯一の国です。世界の現状はそのような状況にあります。

日本の現状

日本は世界の趨勢に逆らうように、死刑執行の数は急速に増えています。1979年から2005年までは年間1人〜2人の執行数が、2006年は4人、2007年は9人、2008年は15人と、ほぼ倍

増の勢いなのです。

カトリックの神父、ホセ・ヨソバルト神父(上智大学名誉教授)は、「どうして死刑を廃止すべきなのか」という講演の中で、いくつかの死刑を廃止すべき理由をあげています。ひとつは、冤罪の可能性があるということ。最近も、死刑判決を受けていた菅家利和さんが冤罪であることが明らかになり、17年ぶりに釈放されました。

二つ目は「人を殺すな」という十戒を取り上げています(この件については、後でまた取り上げます)。そしてさらに、死刑の威嚇力はゼロであることをあげています。死刑を廃止すると凶悪犯罪が増えるのではないかと心配する向きもありますが、そのようなことはありません。死刑に威嚇力はないのです。現に、法務大臣が3人を死刑にして間もないうちに、秋葉原の無差別殺人事件が起きました。